

第三峡田小学校 記録

荒川区立第三峡田小学校 小学校 6 年生・2 学期 社会科歴史「江戸の文化と新しい学問」

学習用ブックリスト作成手順

図書館による授業支援は、以下の手順に沿って試行しました。  
 実際には、授業者（川島徹：第三峡田小学校 主任教諭）、学校司書（吉田香奈子：第三峡田小学校 学校司書）、学校図書館支援室指導員（藤田利江：荒川区教育委員会指導室 学校図書館支援室主任学校図書館指導員）、国際子ども図書館職員（高宮光江、田中千穂子、橋詰秋子：国際子ども図書館児童サービス課）、プロジェクト主査（鎌田和宏：帝京大学文学部教育学科・教職大学院教職研究科准教授）の 5 者による協働作業を行いました。（敬称略）

ステップ	日程	作業事項	内容	「ステップ(7) 評価・振り返り」時の感想・コメント
(0)		事前準備	国際子ども図書館職員は、教科書を読んでおく。	
(1)	2011/7/28	授業者への授業構想インタビュー	国際子ども図書館職員とプロジェクト主査が、授業者となる教員に、学習用ブックリストが対象とする授業の構想（授業目的・調べる方法・時間数・授業日程等）をインタビューする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">記録 授業者インタビュー・授業案・選書用キーワード</div> 学校図書館支援室の指導員が同席し、資料や学校図書館の授業での使い方をアドバイスする。	・教科書を見ながら話し合ったのが、分かりやすかった。（プロジェクト主査） ・授業者へのインタビューを通して、資料を使う子どもたちの状況（調べ学習の経験等）が分かって、選書の参考になった（国際子ども図書館職員：ILCL）  ・司書教諭がない今回の場合、支援室指導員のアドバイスには司書教諭の機能を補完する意味もあっただろう。（主査）
		ブックリスト選書用のキーワード案の作成・確定	授業者が、授業案に基づいてブックリスト選書用のキーワード案を作成する。  4 者で確認し合いながら、キーワードを確定させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">記録 授業者インタビュー・授業案・選書用キーワード</div>	・キーワードを提示したら、充実した資料が集まったので驚いた。（授業者）  ・授業者とキーワードを確認し合うことで、授業者が重視されている点や当該小単元の学習ポイントが分かった。（ILCL）

(2)	~8/15	一次選書	国際子ども図書館職員が、書誌検索ツール（NDL-OPAC 等）を活用して、選書用キーワードをもとに一次選書を行い、一次選書リストを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たたき台となる一次選書リストを作ってもらえたのが助かった。自館にない資料も紹介してもらえた。（学校司書）</li> <li>・リストに、資料の内容が分かる情報（「補記」欄）が含まれていたのが良かった。（支援室指導員）</li> </ul>
(3)	8/16 ~ 8/30	資料集め	学校司書が、支援室指導員の協力を得ながら、一次選書リストの資料を集める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リストがあったので資料を集めやすかった。資料集めでは、荒川区の公共図書館に全面的に協力していただいた。（学校司書）</li> <li>・他校の学校図書館から資料を借りてきてくださるなど、支援室指導員が資料集めを手伝ってくださり、とても助かった。（学校司書）</li> </ul>
(4)	8/30	一次選書の検討	授業者、学校司書、支援室指導員、国際子ども図書館職員、プロジェクト主査の 5 者で、(3)で集めた資料を確認しながら、一次選書リストや追加候補資料を検討する。 資料現物を見ながら、当該授業のための選書基準や授業案を固める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料現物を見たことで、児童が資料を使う様子を具体的にイメージでき、効果的に選書を進めることができた。（授業者）</li> <li>・付箋をつける、必要箇所のコピーを準備するなど、個々の資料の使い方を具体的に検討することができた。（ILCL）</li> </ul>
(5)	9/1 ~ 9/8	二次選書の作成・検討	国際子ども図書館職員が、(4)の検討結果を受けてブックリストを修正（資料の追加・削除）し、二次選書リストを作成する。  授業者が、二次選書リストを確認し、確定させ、ブックリストを完成させる。 記録 学習用ブックリスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完成したブックリストを見て、支援室指導員、学校司書、国際子ども図書館職員という視点や役割が違う 3 者で選書した効果を感じた。今回の学習に合った、幅広い資料を準備することができた。（ILCL）</li> </ul>

<p>(6)</p> <p>9/12～30</p> <p>うち 調べ学習 9/26～30</p>	<p>授業実践</p>	<p>授業者が、ブックリストの資料を用いて授業を行う。</p> <p>学校司書が、授業現場で児童と本をつなぐ支援を行う。支援室指導員が補助をする。</p> <p>記録 授業実践ドキュメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べるテーマに合った資料が揃っていたので、2 時間という少ない時間だったが、調べ学習をうまく進めることができた。子どもたちの満足度も高かったようだ。(授業者)</li> <li>・用意した本を、4, 5 冊続けて読む子が多くいた。(支援室指導員)</li> <li>・調べ学習前から教室に資料を置いておいておいたが、そうした資料の中でも、『落語絵本』が人気だった。絵本から落語に興味を持ち、字の多い落語の本を読む子もいた。(学校司書)</li> <li>・(調べ学習用の資料を事前に読みこむ時間があったので)うまく調べられない子に適切な資料を手渡すことができた。(学校司書)</li> </ul>
<p>(7)</p> <p>11/29</p>	<p>評価・振り返り</p>	<p>授業者、学校司書、支援室指導員、国際子ども図書館職員、プロジェクト主査が集まって、(1)から(6)までを振り返り、授業支援方法や作成したブックリストを評価する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども一人一人の満足度も高く、充実した調べ学習をすることができた。また、このような振り返りの時間があると、結果を確認でき、次の授業にもつなげられると思う。(授業者)</li> <li>・今回の学習支援が、協働作業だったということに改めて感じた。支援室の藤田先生が、司書教諭的機能を補完してくださっていることが分かった。(学校司書)</li> <li>・今回のケースを通じて、支援室指導員の重要な機能が授業支援であることを再確認できた。(支援室指導員)</li> <li>・振り返りの時間があることで、自分たちが選んだ本に児童がどう反応したか分かった。今後の選書の参考にしたい。(ILCL)</li> <li>・今回は、支援室指導員が核となることで、授業者、学校司書、学校外の図書館〔ILCL〕、支援室指導員の4者がチームになって授業支援を行うことができたといえる。(主査)</li> </ul>